

和光市内所在富士塚調査中間報告

野澤均 相田由莉 江口やよい
大内一雄 坂口由加里 田中由美

1. はじめに

和光市内には、民間信仰資料として貴重な富士塚（下新倉富士塚・白子富士塚・浅久保富士塚）が3基存在している。概要は、『和光市史 民俗編』や民俗報告書などで触れているが詳細については不明な点が多い。そのため今回和光市教育委員会では、これら富士塚の実態を解明し、将来文化財として保存していけるように調査を実施した。調査の方法は、富士塚自体の測量調査を実施するとともに、富士講によって造立された記念碑等について碑面の採拓・法量の採寸を行い、台帳を作成した。調査期間は、下新倉富士塚は平成29年7～8月・令和3年11月、白子富士塚は令和2年10月から令和3年5月である。浅久保富士塚については、令和4年度中に実施予定である。

そこで今回の中間報告では、白子富士塚と下新倉富士塚について現在まで解明できた部分について報告する。詳細は、浅久保富士塚調査終了後報告する予定である。

2. 富士塚とは

富士塚とは、従来の解釈では、富士講により構築されたもので富士山を模し、登拝することで富士山に登山するのと同等の利益があるとされていた。いわゆる「模倣富士山」とされるものである。

しかし、近年の研究では、このような富士講構築の富士塚以外にも

- ①自然丘を富士山に見立てた小型富士
- ②富士講以外の人々により構築された富士塚
- ③富士講によって築かれた富士塚

などいくつかの種類があることが解明されてきた。

- ①小型富士は、山頂に富士浅間神社を勧進

した物などがあり、一概に富士講と結びつくものではなかったようだ。県内では、深谷市や小川町に仙元山が存在するが、これらがその例と考えられる。

②富士講以外の人々により構築された富士塚は、遥拝所・みそぎの場や富士浅間神社の勧進場所として利用されていたものと考えられる。

和光市に残る3基の富士塚は、このうち③富士講によって築かれた富士塚である。

3. 和光市内の富士塚研究史

市内の富士塚は、明治時代以後の構築であることから近世の地誌類には掲載されていないが、『武蔵国郡村誌』や『武蔵野歴史地理』などの近代地誌類には、下新倉の浅間神社や白子の富士塚について記されるようになる。

和光市内の富士塚が学術誌に掲載されたのは、昭和36年8月に刊行された『あしなか』第74号の園尾哲郎氏による「新倉付近の富士塚」が初出であろう。ただし本論文は、『あしなか』を発行する山村民俗の会を主宰する岩科小一郎氏の書簡に答えた返信が掲載されたもので、「下新倉地内の富士山」、「白子の富士山」、「浅久保の富士山」が簡単に紹介されているに留まる。浅久保の富士山に関しては、「近年、地主が土地を売ってしまったので、取りこわしたが、講中の人々が土地を寄進して再建」したことや、かつては「毎年六月十五日にお神酒を備えて講中の人々が参拝する」ことや、「七鳥居まいりとかで、七つの富士山を参ると下の病気にかからないとかで、参拝する人も多かったが、最近はだれもこない」ことなどの聞き書きが添えられている¹。

昭和54年に刊行された『山岳宗教叢書』第8巻「日光山と関東の修験道」に収録された平

野栄次氏「武蔵野の富士講」では、「三 丸吉講」の項目で下新倉富士と新倉富士（浅久保富士塚か）が紹介され、富士塚一覧で市内の富士塚が白子富士を加え3基記されている²。

昭和55年初出の『月刊 文化財』第202号（『民衆宗教叢書』第16巻「富士浅間信仰」再録）の平野栄次氏「富士と民俗-富士塚をめぐる-」では、「二 富士塚築造の流行」の項目で「旧新座郡の地域、和光・新座・朝霞・志木の四市の地域だけで、五基が築造されている」ことが記されている³。

昭和55年刊行の『埼玉民俗』第10号の赤石光資氏「埼玉県内の富士（浅間）塚・浅間神社」では、『武蔵国郡村誌』掲載の下新倉の浅間神社及び市内の所在の3基の富士塚が紹介されている⁴。

平成8年刊行の富士市立博物館編『富士塚調査報告書』所収「埼玉県の富士山信仰と富士塚」には、丸瀧講築造富士塚として白子富士塚、丸吉講築造富士塚として下新倉富士塚・浅久保富士塚が紹介されている⁵。

和光市の刊行物としては、

昭和55年3月31日に『上新倉の民俗』

昭和56年3月31日に『下新倉の民俗』

昭和57年3月11日に『白子の民俗』

昭和58年3月30日に『和光市史 民俗編』がそれぞれ刊行されている。

『上新倉の民俗』では、「Ⅵ 信仰 3. 講」の中で上新倉の富士講に触れ、かつての活動内容を紹介しているが、「この富士講では富士塚は築いていない。」としている⁶。

『下新倉の民俗』では、「Ⅵ 信仰 3. 講」の中で下新倉の富士講を紹介し、下新倉氷川八幡社に奉られる富士嶽神社は慶長年間に勧進されたものとする伝承を紹介する⁷。

浅久保富士塚については、昭和44年に「現在の公民館ができたのだが、その時、この浅間様の富士塚も地ならしをしてなくなってしまった。」と報告しているが⁸、これが事実であるならば、昭和33年⁹以外にも浅久保の富士塚は破壊されていたことになる。

『白子の民俗』では、「Ⅵ 信仰 3. 講」の

中で白子の富士講について紹介し、この講が丸瀧講であること、創始者が初代富澤繁右衛門であること、白子富士塚の紹介が掲載されている。丸瀧講の白子への伝播については、「江戸の神田あたりへ白子宿から出かけ交流があったため」と推測している¹⁰。この見解に対し、中嶋信彰氏の「瀬崎の「富士行」」では、瀬崎に丸瀧講が伝播した理由を江戸からのさらし業者の移住に求める説を紹介した後、和光市の丸瀧講について「白子もまた染物の型紙を通じて伊勢国の白子と関係があった。富士講では同業者を媒介に展開する傾向がある」¹¹とし、丸瀧講の白子への伝播についての在り方を示唆されている。

『和光市史 民俗編』では、「第三編 第二章 第二節 講と代参講」のなかで市内の富士講をまとめ丸吉講・丸瀧講が紹介され、3基の富士塚について解説されている¹²。

4. 下新倉富士塚

下新倉富士塚は、下新倉氷川八幡神社の境内に所在する。築造地は台地上の平坦面で、この平坦面に土を積み上げ構築されたものである。

富士塚の築造時期は、塚の参道に造立されている富嶽誌（台帳番号1-8）から明治4年に丸吉講下新倉講社により築造されたことが分かる。

しかし、山頂の神名碑（台帳番号1-10）の再建銘と合わせて考えると、富嶽誌の記述通り慶長年間に勧進した富士浅間神社を嘉永元年に再築し、明治4年に富士塚を築造し、富士嶽神社の祭祀を継続したものと解される。

平面形は、現状ではおよそ径15mを測る円形を呈し、境内地からの比高はおよそ3mである。頂上部には、3mほどの幅に平坦面を設け、嘉永元年銘の「浅間太神」の神名碑が建てられ、この碑には「再建」と刻まれている。

現在の参道は、鳥居をくぐった後、

①一直線に山頂を目指す道

②北側をめぐる塚を半周して山頂に至る道

③②ルートから南に折れ②ルートの反対方向に塚を1/4周して山頂に至る道

の3ルートが認められるが、当初から存在した参道は、②と③であると考えられる。②は、御中道巡りのルートを模したもの、③は、富士登山北口ルートであろう。

石造物は、今回の調査で14基を確認した。主なものは、破損しているが丸彫神猿が1対・石祠などがある。神猿は鳥居あるいは鈴原社碑の左右に立てられていたものであろう。石祠は、明治5年銘を持つことから当初は山頂に置かれていたものである可能性も指摘される。

石造物の詳細については整理作業終了後に改めて報告する。

5. 白子富士塚

白子富士塚は、白子宿の鎮守社である白子熊野神社境内に所在する。築造地は、白子川を臨む崖線の間接地で、西から東に向かって斜面となっている。発掘調査などが実施されないと判断ししないが、この斜面を成型して基壇部を造成している可能性もある。

富士塚の築造時期は、塚の参道に造立されている築造碑(台帳番号2-7)から明治3年に丸瀧講白子講社により築造されたことが分かる。

平面形は、南西部及び東南部に若干の変形が認められるものの当初は一边およそ30mを測る正方形を呈していたものと推測される。境内地からの比高はおよそ10mを測ることから、県内でも比較的大型の富士塚であるといえる。塚の北西部は比較的に残りが良いが、北東部はマンションの建築によるものか変形を受け、南東

部も輪郭線がはっきりとしていない。東隅部は現状では若干の張り出しと見られる形状を呈するが、塚の変形によりそうみられる可能性もある。ただし、この部分には石祠2棟と鳥居・手水鉢があり、手水鉢には明治5年、鳥居には明治9年の紀年銘があることから、富士塚築造からすぐには作られていた施設であると考えられる。

富士塚への参道は、白子熊野神社への参道から南に分岐する。富士塚参道入口には、明神鳥居が造立され、左右に神猿を線刻した板石が建てられる。鈴原社を意識したものかもしれない。

現状では頂上へ向かう参道は、東側を回り張り出し状施設から西に向かい山頂に至るルートがとられる。しかし、石碑類は南側斜面に集中すること、昭和期の報告では参道が九十九折となっていることが確認できることから、現在細く残る石碑の周囲を通過する道が元の参道であったものと推定される。

石造物は、市史編さん時の調査の際に確認できたもののうち今回の調査では1基が確認できなかったが、45基を確認した。新たに確認した石碑のうち江戸時代の年号を刻む1基(台帳番号2-14)は、般若心経万巻供養碑で富士塚造営以前の造立物である。台帳番号2-22は、文字類は確認できなかったが烏帽子岩の位置に該当する場所に存在することから、烏帽子岩に見立てられた可能性を考慮し調査対象とした。

石造物の詳細については整理作業終了後に改めて報告する。



下新倉富士塚（下新倉氷川八幡神社）



白子富士塚（白子熊野神社）

6. 小結

下新倉富士塚・白子富士塚についてその概要を記してきたが、和光市内では幕末から明治時代には富士講の活発な活動が認められ、市内に3基の富士塚を築造し、その他新倉氷川八幡神社にも富士講碑が造立されている。

また近隣の志木市・新座市・板橋区・練馬区の講社と活発な交流があり、これら地域の富士塚築造の際にはそれぞれの講社が他地域の富士塚に記念碑を造立し、和光市内の富士塚にも他地域の講社の記念碑が築造されていることから裏付けられよう。

明治期の富士登山の記録として、昭和60年に和光市史編さん室が編集した『地福寺日並記』の明治33年8月1日～4日の項に富士登山の記載が確認できる¹³。

ルートは、

- 1日 板橋より御殿場まで汽車。それより須走まで馬車。吉田御師小澤速瀬方着。
- 2日 吉田より富士胎内くぐり。6合5尺小屋小左衛門方泊。
- 3日 登頂。御鉢巡り。須走へ下山。甲州屋泊。
- 4日 須走出立。御殿場より新橋へ汽車。

とされている。民俗調査では、昭和時代まで富士登山が行われていたことが確認されており、今回の調査からも和光市域では富士信仰が盛んであったことが理解された。

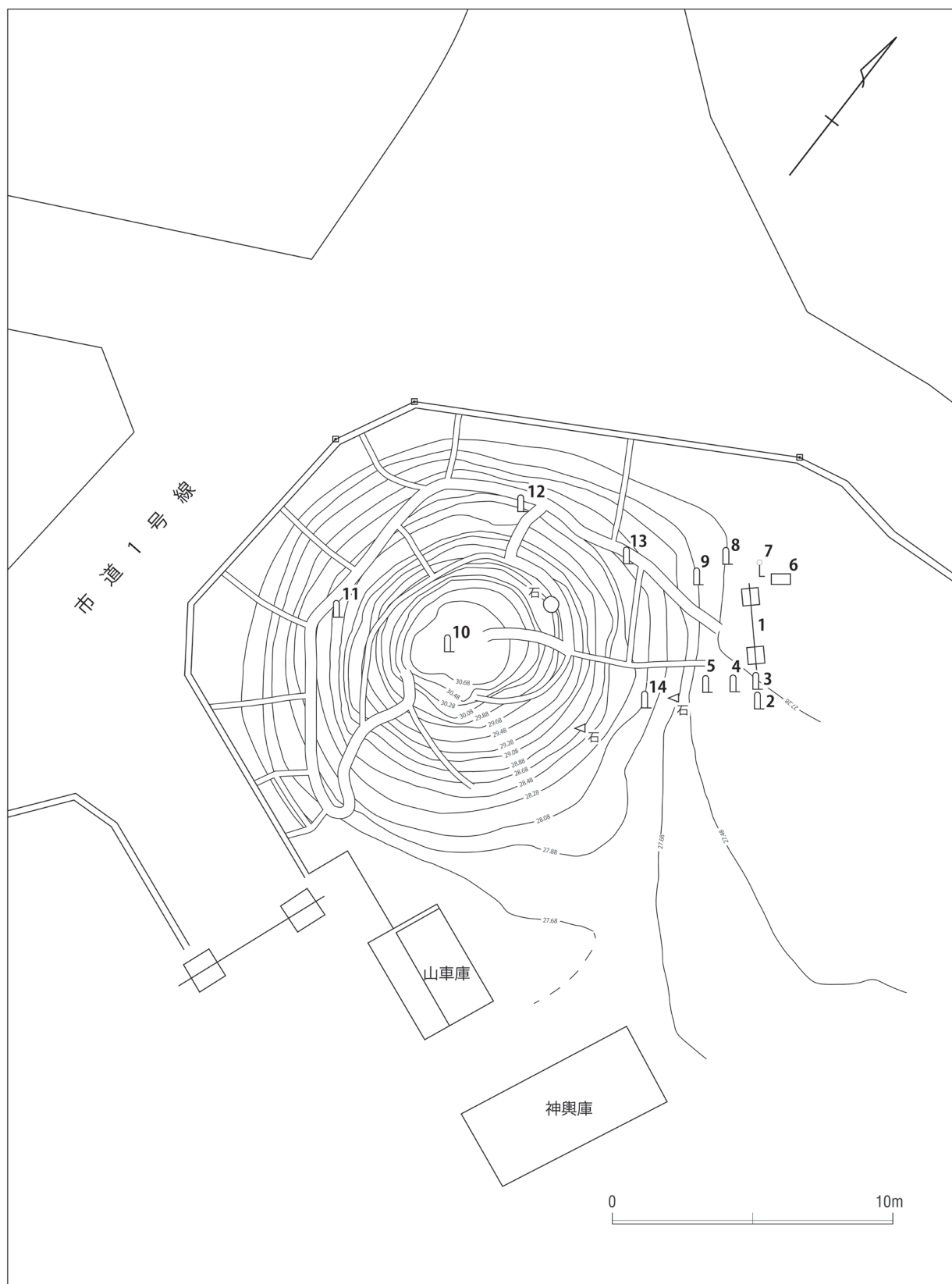
また、旧上新倉村には、現在の本町・新倉1丁目近辺に富士塚の小字がかつて存在していた¹⁴。現在は富士塚などの痕跡も無く、近世・近代の地誌類で浅間神社などの存在は確認できない。これは、「2. 富士塚とは」で説明した②富士講以外の人々により構築された富士塚の可能性が示唆される地名と考えられ、中世期には浅間社が祭られていた可能性もある。後考を待って議論される必要があろう。

【註】

- 1 園尾哲郎 1961「新倉付近の富士塚」『あしなか』第74号 山村民俗の会 (p.12)
- 2 平野栄次 「武蔵野の富士講」1979『山岳宗教史

- 研究叢書第8巻 日光山と関東の修験道』名著出版 初出 2004『平野栄次著作集Ⅰ 富士信仰と富士講』岩田書院 所収 (p.324・325)
- 3 平野栄次 「富士と民俗-富士塚をめぐって-」1980『月刊文化財』第202号 第一法規出版 初出 1987『民衆宗教史叢書第16巻 富士浅間信仰』雄山閣出版 所収 (p.99・100)2004『平野栄次著作集Ⅰ 富士信仰と富士講』岩田書院 所収 (p.231・232)
- 4 赤石光資 1980「埼玉県内の富士(浅間)塚・浅間神社」『埼玉民俗』第10号 埼玉民俗の会 (p.90・103)
- 5 富士塚調査研究委員会編 1996「埼玉県の富士山信仰と富士塚」『富士塚調査報告書』富士市立博物館 (p.126)
- 6 和光市史編さん室 1980「Ⅵ 信仰 3. 講」『和光市史編さん資料2 上新倉の民俗』和光市 (p.132～134)
- 7 和光市史編さん室 1981「Ⅵ 信仰 3. 講」『和光市史編さん資料4 下新倉の民俗』和光市 (p.169～171)
- 8 同上 (p.171)
- 9 和光市編 1983「付録 石塔・石仏 六 富士講碑 浅久保浅間神社富士講碑 六 -90」『和光市史 民俗編』和光市 (p.861)
- 10 和光市史編さん室 1982「Ⅵ 信仰 3. 講」『和光市史編さん資料5 白子の民俗』和光市 (p.134)
- 11 中嶋信彰 2014「瀬崎の「富士行」」『草加市の文化財』第30集 (p.9)
- 12 小花波平六 1983「第三編 第二章 第二節 講と代参講」『和光市史 民俗編』和光市 (p.612～619)
- 13 和光市史編さん室編 1985『和光市史史料編別集 地福寺日並記』和光市 (p.108)
- 14 白根多助・吉田清英 1875『武蔵国群村誌』第三巻 武蔵国郡村誌刊行委員会 埼玉県編 1954『武蔵国群村誌』第三巻(限定版) 埼玉県立図書館 雄文閣 所収 (p.329)

のざわひとし(和光市教育委員会)
あいだ ゆり(和光市教育委員会)
えぐちやよい(和光市教育委員会)
おおうちかずお(和光市教育委員会)
さかぐち ゆかり(和光市教育委員会)
たなかゆみ(和光市教育委員会)



下新倉富士塚（下新倉氷川八幡神社）平面図

第1表 下新倉富士塚（下新倉氷川八幡神社）の石碑一覧表

台帳番号	名 称	法量 (cm)			形状	石質	備 考
		高さ	幅	厚さ			
1-1	下新倉氷川八幡神社 鳥居	260	410	22	鳥居	安山岩	和光市史(民俗編) 六-40
1-2	下新倉氷川八幡神社 藤森	49	32	5	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-44
1-3	下新倉氷川八幡神社 石祠	40	23	16	柱状	安山岩	
1-4	下新倉氷川八幡神社 登山記念碑（登山三十三度）	97	43	10	板状	片岩	和光市史(民俗編) 六-42
1-5	下新倉氷川八幡神社 登山記念碑（富士登山大願成就）	135	61	12	板状	片岩	和光市史(民俗編) 六-41
1-6	下新倉氷川八幡神社 手水鉢	35	67	44	水盤	安山岩	和光市史(民俗編) 六-38
1-7	下新倉氷川八幡神社 神猿像	47	18	20	彫像石碑	安山岩	
1-8	下新倉氷川八幡神社 歌碑 築山碑	102	85	10	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-37
1-9	下新倉氷川八幡神社 鈴原神社	103	47	10	自然石	片岩	
1-10	下新倉氷川八幡神社 神名碑 浅間太神	155	41	16	板状	片岩	和光市史(民俗編) 六-36
1-11	下新倉氷川八幡神社 御中道大願成就碑	89	65	9	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-39
1-12	下新倉氷川八幡神社 小御嶽石尊	75	54	12	板状	安山岩	
1-13	下新倉氷川八幡神社 同行碑（浅久保同行）	65	70	11	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-43
1-14	下新倉氷川八幡神社 御座石	51	31	7	板状	安山岩	



1-1



1-2



1-3



1-4



1-5



1-6



1-7



1-8



1-9



1-10



1-11



1-12

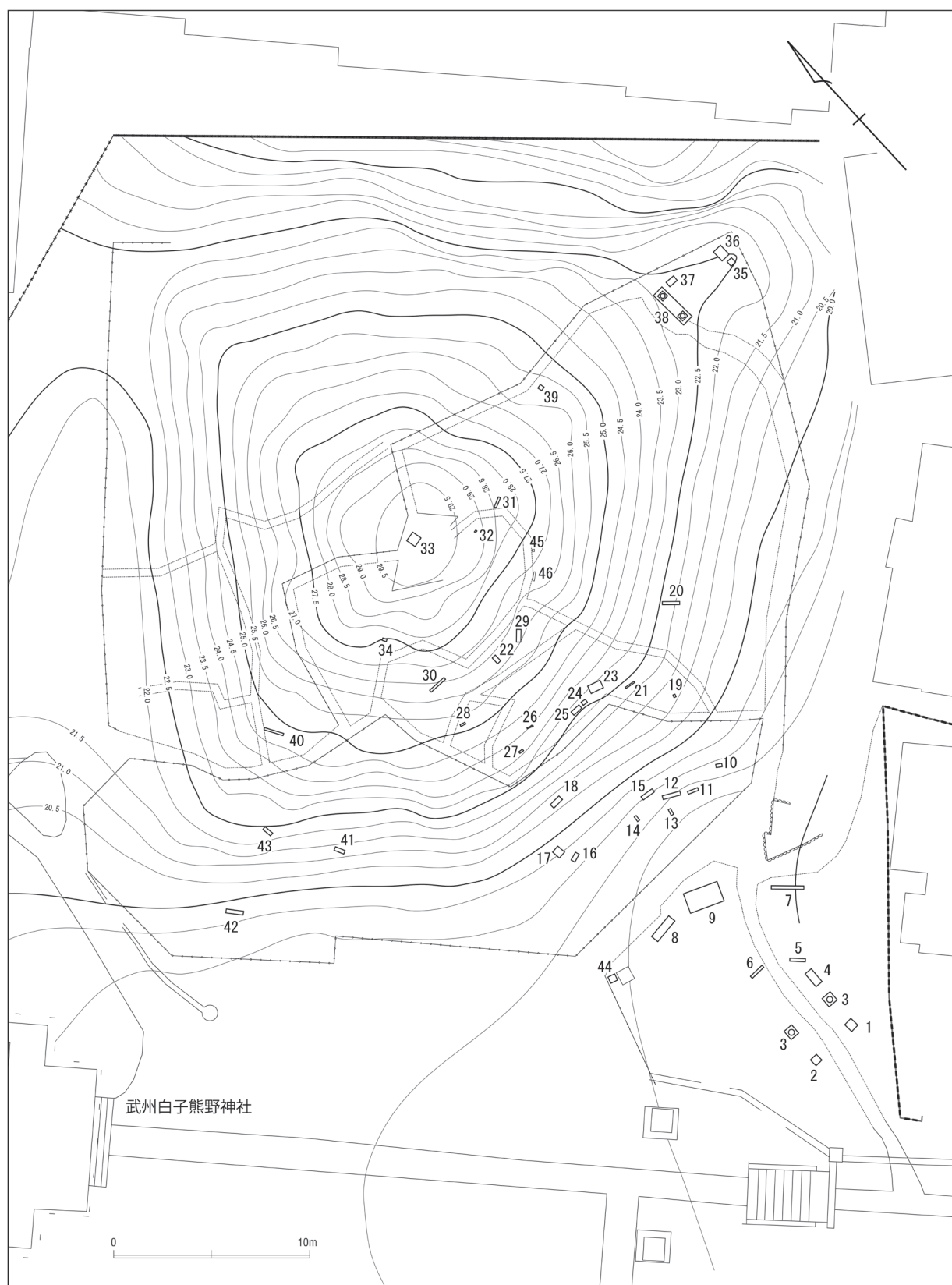


1-13



1-14

下新倉富士塚（下新倉氷川八幡神社）の石碑



白子富士塚（白子熊野神社）平面図

第 2 表 白子富士塚（白子熊野神社）の石碑一覧表

台帳番号	名 称	法量 (cm)			形状	石質	備 考
		高さ	幅	厚さ			
2-1	白子熊野神社 石灯笼（右）	137	42	40	石灯笼	安山岩	和光市史(民俗編) 六-5
2-2	白子熊野神社 石灯笼（左）	137	42	40	石灯笼	安山岩	和光市史(民俗編) 六-5
2-3	白子熊野神社 鳥居（1）	310	400	25	鳥居	安山岩	和光市史(民俗編) 六-25
2-4	白子熊野神社 手水鉢（1）	42	83	42	水盤	安山岩	和光市史(民俗編) 六-4
2-5	白子熊野神社 神猿（右）	85	90	12	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-19
2-6	白子熊野神社 神猿（左）	86	115	14	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-19
2-7	白子熊野神社 築山碑	130	175	20	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-15
2-8	白子熊野神社 登山記念碑（白子環境美化促進協議会）	140	90	17	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-8
2-9	白子熊野神社 丸瀧惣同行碑	200	115	40	自然石	片岩	和光市史(民俗編) 六-14
2-10	白子熊野神社 登山記念碑（登山五十五度）	93	30	20	柱状	花崗岩	和光市史(民俗編) 六-26
2-11	白子熊野神社 登山記念碑（登山三十三度）	130	60	20	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-2
2-12	白子熊野神社 登山記念碑（登嶽三十三度）	140	120	14	板状	玄武岩	和光市史(民俗編) 六-6
2-13	白子熊野神社 七合五勾合目石	32	-	-	柱状	-	未発見 和光市史(民俗編) 六-30
2-14	白子熊野神社 心経万巻供養碑	25	15	23	柱状	安山岩	下部欠損
2-15	白子熊野神社 登山記念碑（登山三十三年・三十三度）	160	70	25	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-1
2-16	白子熊野神社 奉納歌碑	65	43	6	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-7
2-17	白子熊野神社 石祠（1）	85	43	40	石祠	安山岩	和光市史(民俗編) 六-35
2-18	白子熊野神社 御座石神社	100	65	23	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-31
2-19	白子熊野神社 三合目合目石	45	11	10	柱状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-29
2-20	白子熊野神社 奉納歌碑	215	90	15	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-9
2-21	白子熊野神社 同行碑（引又 同行）	55	55	7	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-16
2-22	白子熊野神社 鳥帽子岩	62	55	15	板状	安山岩	
2-23	白子熊野神社 石祠（5）	95	65	45	石祠	安山岩	和光市史(民俗編) 六-13
2-24	白子熊野神社 同行碑（上赤塚 同行）	62	38	8	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-12
2-25	白子熊野神社 同行碑（西台・徳丸 同行）	57	54	11	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-11
2-26	白子熊野神社 同行碑（田柄 同行）	50	40	12	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-10
2-27	白子熊野神社 奉納碑（富澤徳次郎）	69	31	6	板状	片岩	和光市史(民俗編) 六-33
2-28	白子熊野神社 同行碑（田柄久保・下練間宿 同行）	40	33	17	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-27
2-29	白子熊野神社 奉納碑（柳下織右衛門）	85	54	27	自然石	片岩	和光市史(民俗編) 六-32
2-30	白子熊野神社 奉納歌碑	138	110	20	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-23
2-31	白子熊野神社 同行碑（駒込・千住 同行）	59	50	7	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-28
2-32	白子熊野神社 九合目合目石	62	13	11	柱状	安山岩	
2-33	白子熊野神社 石祠（4）（山頂 浅間神社）				石祠	安山岩	和光市史(民俗編) 六-3
2-34	白子熊野神社 奉納歌碑	82	15	10	自然石	安山岩	和光市史(民俗編) 六-17
2-35	白子熊野神社 石祠（2）	60	43	25	石祠	安山岩	和光市史(民俗編) 六-20
2-36	白子熊野神社 石祠（3）	104	63	49	石祠	安山岩	和光市史(民俗編) 六-20
2-37	白子熊野神社 手水鉢（2）	44	68	34	水盤	安山岩	和光市史(民俗編) 六-21
2-38	白子熊野神社 鳥居（2）	224	243	65	鳥居	安山岩	和光市史(民俗編) 六-24
2-39	白子熊野神社 雲切不動明王像	72	24	22	彫像石碑	安山岩	和光市史(民俗編) 六-22
2-40	白子熊野神社 宝永山	130	120	7	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-18
2-41	白子熊野神社 同行碑（下新倉 同行）	55	50	11	板状	安山岩	和光市史(民俗編) 六-34
2-42	白子熊野神社 太々御神楽記念碑	220	80	13	板状	安山岩	
2-43	白子熊野神社 同行碑（越後山 同行）	68	35	11	板状	安山岩	
2-44	白子熊野神社 台石	20	38	35	台石	安山岩	
2-45	白子熊野神社 八合五勾合目石	45	12	12	柱状	安山岩	
2-46	白子熊野神社 溶岩 1	46	46	9	自然石	溶岩	



2-1



2-2



2-3



2-4



2-5



2-6



2-7



2-8



2-9



2-10



2-11



2-12



2-13



2-14



2-15



2-16

白子富士塚（白子熊野神社）の石碑（1）



2-17



2-18



2-19



2-20



2-21



2-22



2-23



2-24



2-25



2-26



2-27



2-28



2-29



2-30



2-31



2-32

白子富士塚（白子熊野神社）の石碑（2）



2-33



2-34



2-35



2-36



2-37



2-38



2-39



2-40



2-41



2-42



2-43



2-44



2-45



2-46

白子富士塚（白子熊野神社）の石碑（3）